

# 競技注意事項

## 1. 規則

競技は2020年度（公財）日本陸上競技連盟競技規則及び本大会要項、申し合わせ事項による。  
なお、2020年度公益財団法人日本陸上競技連盟競技規則第162条5の適用はしない。

## 2. 練習

- (1) 練習は第2競技場とし、安全面に十分注意して行うこと。第2競技場の使用は選手のみとする。
- (2) 会場への投擲物の持ち込みは禁止とし、練習は現地集合後に本競技場に入場してから行う。
- (3) フィールド競技の練習は、競技開始前に審判の指示により競技場内で行う。
- (4) 器具を使用後は、手洗いをすること。

## 3. 競技場とスパイクの使用

- (1) 本競技場は全天候型である。
- (2) 使用できるスパイクのピンの長さは、走高跳12mm以下、その他は9mm以下とし、その数は11本以内とする。また、先端近くで、少なくとも長さの半分は4mm四方の定規に適合するものでなければならない。
- (3) シューズ（スパイク・ランニングシューズ含む）の靴底（ソール）全体の厚さは以下の通り。  
トラック種目：800m未満の種目は20mm以内、800m以上の種目は25mm以内  
※フィールド種目については、以下の規定に準ずることが望ましい。（12月1日以降完全実施）  
走高跳：20mm以内（かかと含む）  
走幅跳：20mm以内（ただし前部が踵部より厚くなってはならない）

## 4. 選手受付（招集方法について）

- (1) 選手または代理人は競技開始の120分前～60分前までに JAFF 健康管理チェックシートと大会出場承諾書をTICへ提出すること。（押印欄に押印のないものは受け付けない）
- (2) 選手受付を終えた選手または代理人は招集所で出場者の名前に○印を付ける。
- (3) 選手受付（招集）をしていない者は棄権とみなし出場を許さない。
- (4) トラック種目は競技時間の15分前、走幅跳の選手は競技時間の30分前、棒高跳び及び砲丸投げは競技時間の60分前（集合完了時刻）までに下記の場所に集合する。また、荷物は各自で管理すること。

◇1000m・1000mH・1100mH・4000mR（4走）	雨天走路
◇2000m・3000m・4000mR（3走）	第3ゲート
◇1500m・4000mR（2走）	第2ゲート
◇4000m・8000m・4000mR（1走）	第1ゲート
◇走高跳	ピット
◇棒高跳	ピット
◇走幅跳	ピット
◇砲丸投	ピット
- (5) トラック種目の競技者は、出発係から腰ナンバーカードを受け取り、右尻部につけること。（リレー競技は第4走者のみ）

## 5. 入退場

- (1) 入場についてはマーシャルの指示・誘導に従う。
- (2) トラック競技は、レース終了後腰ナンバーカードを係に返却し、第1ゲート付近臨時手洗い場で手洗いをし、スタート付近に戻り、荷物を持って待機場所へ戻る。
- (3) フィールド競技は、競技終了後に荷物を持って臨時手洗い場もしくは雨天練習場で手洗いをし、ベンチに戻る。

## 6. アスリートビブス

- (1) アスリートビブスは千葉県小中学校体育連盟陸上競技専門部指定のものを使用する。
- (2) アスリートビブスは胸（腹ではない）と背にしわにならないように四隅をしっかりつけ、切ったり曲げたりしてはならない。但し、跳躍種目は1枚を胸または背のどちらかにつけるだけでよい。

## 7. 走路順

トラック競技の予選の組、走路順、フィールド競技の試技順は主催者が抽選しプログラムに数字で示し、決勝の組・走路順は本部で抽選し、アナウンス及び速報サイトにて掲載する。

## 8. 棒高跳支柱移動申告について

各競技者は、競技開始15分前までに当該審判に自分の希望する支柱の位置を申告すること。もしも競技者がその位置を変更したいときは直ちに当該審判員に申告すること。

## 9. 3000mのスタート方法、給水について

3000mにおいてグループスタートを採用する。その際、各組のおよそ3分の2までが内側スタート、残りが外側スタートとする。なお、スタート10m以内には内側外側を分ける縁石は置かない。〔第162条⑩〕また、気象条件によっては給水を行う。

## 10. リレー競技について

- (1) リレー競技に出場するチームは、リレーオーダー用紙を TIC で受け取り、必要事項を記入の上、集合完了時刻の60分前までに TIC に提出のこと。
- (2) リレー競技においては、チームの出場者は同一ユニフォームを着用することが望ましい。
- (3) リレーのマーカの使用は1カ所とする。〔第170条⑩を適用〕

## 11. 走高跳・棒高跳のバーの上げ方

- (1) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は次の通りとする。

	練習	1	2	3	4	5	6	7	
男子走高跳	1m45 1m65	1m50	1m55	1m60	1m65	1m70	1m73	1m76	以降3cmずつ
女子走高跳	1m25 1m45	1m30	1m35	1m40	1m45	1m48	1m51	1m54	以降3cmずつ
男子棒高跳	2m70 2m90 3m10	2m70	2m90	3m00	3m10	3m20	3m30	3m40	以降10cmずつ
女子棒高跳	2m20 2m40 2m60	2m20	2m40	2m50	2m60	2m70	2m80	2m90	

- (2) 第1位に関わる競技者が同成績の場合は、第1位決定のためのバーの上げ下げの範囲は走高跳では2cm、棒高跳では5cmとする。〔第181条⑧〕

## 12. 番組編成

1000mから800mまでは、上位1～4位の4名、または4チームを中央の3～6レーンに、5、6位が7、8レーン、下位2名または2チームを1、2レーンにアトラダムに割り当てて決定する。

## 13. 計時・競技の抽選

- (1) 競走競技はすべてのレースにおいて写真判定を採用する。  
(2) トラック競技においてプラス進出者を決める場合、その最下位で同タイム者が出たときは下記の方法で競技を行う。  
ア、400m以下の競走競技、障害走においては、1000分の1秒以上の比較をし着差の判定をする。それでも判定できない場合は、競技者又は代理人によって抽選をして決定する。  
イ、800mにおいては、アと同様に比較し、それでも判定できない場合は、次のラウンドに進める。(レーン内に2名の競技者が走る)

## 14. 不正スタートについて

不正スタートした競技者はすべて失格とする。2020年度公益財団法人日本陸上競技連盟競技規則第162条5の適用はしない。

## 15. フィールド競技について

- (1) 走幅跳、砲丸投は3回の試技とする。記録上位8名がトップ8へ進出し、さらに3回の試技を認める。  
(2) 棒高跳、砲丸投について、棒高跳、砲丸投で使用する滑り止めは各自で準備をし、滑り止めを他人と共有はしない。

## 16. 用 器 具

- (1) 棒高跳のポール以外は競技場備え付けのものを使用する。  
(2) 棒高跳のポールは本部の公式計測員(技術総務)または、跳躍審判員の検査を受けてから使用する。

## 17. 抗 議

発表された結果に対する抗議は、正式発表後(全てのラウンドにおいて15分以内、ただし翌日に上位ラウンドがある競技は30分以内)に各顧問がTICを通じて審判長に対して口頭で行い、控室で待機する。さらに、この裁定に不満の場合は預託金10,000円を添えて、担当総務員(ジュリー)に文書で申し出る。

## 18. 表 彰

表彰は行わない。8位までの入賞者はアナウンスの結果やWEBの大会速報を見てTICにメダル、賞状を取りに来る。(30分～45分を目途)

## 19. そ の 他

- (1) 記録の発表は、アナウンス及びWEBの大会速報のみとする。記録の掲示はしない。  
(2) 各自の持ち物については自分自身で管理し、盗難に注意する。  
(3) ゴミについては必ず持ち帰ること。競技場、駅、バス停などに絶対に捨てないこと。  
(4) 選手の控え場所は、陸上競技場スタンド・芝生スタンド、第2陸上競技場、陸上競技場1F軒下、緑地帯(R16号沿いは禁止)とする。但し、陸上競技場スタンド・芝生スタンドは保護者観戦スペースを設けているので個人利用のみとする。利用する場合はソーシャルディスタンスを配慮して使用する。学校単位での控え場所(テントやシートを設置する場合)については、第2陸上競技場、陸上競技場1F軒下、緑地帯(R16号沿いは禁止)とする。  
(5) プログラムの記載事項の訂正については1日目、2日目とも競技開始1時間前までに、本人または代理人がTICへ届け出ること。  
(6) 競技中に発生した事故などについては応急処置を主催者で行うが、以降の責任は負わない。また、体調が悪くなった選手は医務員の指示に従うこと。  
(7) レースを棄権する競技者は棄権届をTICで受け取り、必要事項を記入の上、競技1時間前までにTICへ提出すること。  
(8) 駐車場については、緊急車両駐車スペース等(ゼブラゾーン)への駐車を避け、つめて駐車すること。なお、駐車証の無いものは大駐車場を利用し、路上への駐車や停車は行わないこと。